

報告要旨

† 報告者:

氏名: 斎藤 晃一

所属: 筑波大学大学院博士後期課程

システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻

† 報告論文タイトル:

内生的時間選好率と復元可能領域における最適汚染水準

† 報告論文概要:

環境汚染から不利益をこうむる人々は、より活発な経済活動に直面するとき、それが環境汚染の蓄積を加速するであろうという予想から自らの将来見通しすなわち時間選好率を変化させると考えられる。その場合の社会経済と自然環境とが共存できる持続可能な汚染の水準について考察する。考察の結果、人々がより活発な経済活動に直面して汚染蓄積がより進行するであろう将来よりも現在をより重要視する場合に、経済活動と汚染蓄積の水準が同時に抑制されていくという一見逆説的な最適経路が存在することを示す。また、外生的時間選好率の下での分析結果と異なり、持続可能な汚染水準はそれが唯一でかつ動学的に不安定となってしまう場合があることを示す。

† 主な参考文献:

Forster, B., 1975. Optimal pollution control with a nonconstant exponential rate of decay. *Journal of Environmental Economics and Management* 2, 1-6.

Tahvonen, O., Withagen, C., 1996. Optimality of irreversible pollution accumulation. *Journal of Economic Dynamics & Control* 20, 1775-1795.

Toman, M., Withagen, C., 2000. Accumulative pollution, "clean technology," and policy design. *Resource and Energy Economics* 22, 367-384.